

副専攻長からのメッセージ

副専攻長 瀧本 壽史 「ライフワークと教職大学院での学び」



昨年末、雪を避け、南で年越しをしようとして新幹線に乗り込んだ。4月にスタートした教職大学院は、戸塚学部長と中野専攻長を先頭に初めて尽くしの中で走り続けてきた。1期生の院生は教員以上に戸惑っていたのだろうと思うと心苦しさもあったが、少しゆったりしたい気分でもあった。

いつものように「トランヴェール」を開き、沢木耕太郎の「旅のつばくろ」に目をやった。「雪」という題で井上靖とのエピソードを綴った内容であったが、後半、懐かしくもドキッとした言葉に再会した。「ライフワーク」である。しばらく意識から離れていた言葉であるが、少なくとも自分の意思で職業を選択し、それを全うしようとする人間であれば、誰しものがどこかの時点でこの言

葉を念頭に置いた生き方を目指そうとするのではないだろうか。ライフワークは人生経験を積むに従って少しずつ変化していく。しかし、その根幹となるもの、根っことなり、本流となって流れるものは大きく変わることはない。

私がライフワークと言えなにかがしさを意識したのはひたすら修論に打ち込んでいたときであった。研究計画は死ぬ時まで立てていた。ドキッとしたのはその頃のことを思い出したからである。ストマスの院生らはライフワークの根幹となり、継続し得るような研究テーマに打ち込み、現職教員の院生らはライフワークの再確認と軌道修正に日々努めているはずである。

沢木は友人の造語だという「ライフワーク」を紹介し、食べるための仕事と自分の今を対比している。教員を続けることはライフワークである。どのような教員となるのか、どのようなテーマを持ち続けていくのか、ライフワークという自分自身のあり方、生き方を強く意識し、それに精一杯向かっていく時間が教職大学院での学びの時間なのだろう。

北帰行の新幹線の中、再度開いた「旅のつばくろ」に自省し、1期生に刺激を受けながら、心新たにライフワークに取り組んでいきたいと思った。

副専攻長 三戸 延聖 「嚆矢勁草」



日ごろより本学の学生が様々な機会を通じて実習させていただいている連携協力校並びに教育機関の皆様におかれましては、貴重な御助言を賜り改めて感謝申し上げます。

さて、題に示した四字熟語「嚆矢勁草」は、まもなく一年になろうとする教職大学院を振り返って感じていることを言葉にした私なりの造語です。先日インストールした念願のアプリ『日本国語大辞典』によれば、「嚆矢」（こうし）とは物事の初め、最初という意味とあり、原義を辿ると「やじりに鏑（かぶら）を用いて、射ると音を立てる矢を言い、古来中国で戦争の初めに射たことによるもの。」とあります。一方「勁草」（けいそう）

とは風雪に耐える強い草という意味で、「疾風に勁草を知る」という用い方をします。

空中に放たれた「嚆矢」からは、ストレートという語の響きを連想させ、大地に根差した「勁草」からはリーダーに求められる温かさと謙虚な姿勢が思い浮かびます。

本学の特徴は、ストレートマスターとモデルリーダー（現職）の協働的な学びの中で不即不離の日常を送っていることです。いわば、「嚆矢勁草」と一括りで捉えることでその実相を表していると言えます。

物事を創生するには産みの苦しみはつきものです。同時に、それは真理に近づくための道程でもあります。私たち教職員もチームとして「嚆矢勁草」の輪に加わり、本県教育の未来に貢献すべく最善を尽くして参りたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大盛況だった「いじめ防止研修会」

12月2日（土）に宮城教育大学が主催し、弘前大学、青森県教育委員会が共催、文部科学省の後援による「いじめ防止研修会」が弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールで開催されました。県内外の現職教員、教育委員会、大学教員、大学の学生や院生など180名の参加をいただき大盛況のうちに終了することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

基調講演では、「いじめ問題に関する取組と現状」というテーマで文部科学省初等中等教育局児童生徒課長の坪田知広氏より「いじめ防止等のための基本的な方針の改定された内容等」の説明をいただき、参加者からは「いじめを報告すると、残念ながら不機嫌になる管理職がいます。全てを否定され、報告したことを後悔しましたが、坪田先生の講演を拝聴して勇気が出ました」などの感想意見がありました。また、鳴門教育大学教授 阿形恒秀氏の「いじめ防止対策の現状と課題～学校現場の指導の難しさ～と大切さ～」の講演では、行政と現場をどのようにつないでいくかという視点でお話いただきました。参加者からは「明日からの生徒に向き合うヒントをいただき、元気ができました」や「いじめの人間関係に希望をもって踏み込む姿勢の大切さを学びました」などのご意見がありました。「時間が足りなかったのが残念で、もう少し詳しく聞きたかったです」という意見もあり、熱意のある講演でした。

さらに、弘前大学教職大学院ミドルリーダー養成コースの坂本寛実先生（田舎館中学校教諭）からの「いじめ防止の取り組みについての実践事例報告」では、「館中いいね!」という、いじめ防止につながっている学校現場での具体的な取り組み内容が発表されました。参加者からは「すぐ使える具体的なツールを学ぶことができ、うれしく思いました」や「いじめ防止には特別な仕掛けは必要なく、日頃の小さな認め合いを子ども達に体験させることの大切さを学びました」などのご意見をいただきました。

来年度は秋田大学での開催を予定しております。今年度同様、多数の皆様の参加をお待ちして、いじめの防止を目指していきたいと思っております。



実践事例を発表した
教職大学院生 坂本寛実先生

日本教職大学院協会の研究大会での院生の発表

去る12月10日（日）に日本教職大学院協会研究大会が開催されました。ミドルリーダー養成コースの長谷川泰樹先生（斗川小学校教諭）が、キャリアの視点を取り入れて、子どもの主体性の育成を目指す「児童の主体性を育むキャリア教育のアプローチ～教科領域と特別活動を横断して～」の研究テーマについて、3つの視点を中心に発表しました。参加者からの感想・助言をいただいたことでこれからの研究実践に向けたヒントが得られ、貴重な機会となったようです。本教職大学院の代表として、全国の関係者の前で堂々とした発表でした。

視点①「学ぶ内容からのアプローチ」

教科領域で学ぶ内容と日常生活・職業・将来とを関連させ、「なぜ、何のために学ぶのか？」に気付かせようとするもので、例えば、日常生活との関連を実感しにくい算数では、学校の敷地の面積を求める題材を単元に取り入れることで、算数と身近な学校とをつなげ、子どもが学ぶ意義や価値に気付かせるなどの工夫をする。

視点②「学ぶ方法からのアプローチ」

教科領域の授業で行われる学習活動を基礎的・汎用的能力を育成する場として位置付ける。例えば、考えを話し合う場面では、「誰に向けて発表するのか」を意識させた話し合いをさせることで、相手意識を持って自分なりの言葉で表現する力が高まっていくような工夫をする。

視点③「特別活動からのアプローチ」

教科の授業以外での活動が、「自分の生活や将来とどのようにつながっているのか」について気付かせるために、例えば、委員会は何のためにあるのかを考えさせてから活動に取り組ませることで、その意義や価値に気付く、子どもたちが自ら考えて行動できるように工夫する。



研究大会で発表した
教職大学院生 長谷川泰樹先生

教職大学院のホームページを開設しました

12月28日(木)に弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)のホームページを開設しました。カリキュラム体系、実習の流れ、入試情報、発刊物、教職員の情報など様々なものが一目で分かるように掲載してあります。是非ご覧いただき、教職大学院の様子を検索して見てください。なお、アクセスの仕方は「<http://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/gs/>」を開き、「ホームページをリニューアルしました。-弘前大学研究科」を開いてもらうと閲覧が可能です。

今後はこのNews Letter 3号、4号…なども随時掲載したり、今年度末に行われる教職大学院の外部評価等も掲載したりして、充実を図っていきたいと思っておりますので楽しみにお待ちください。

「年次報告会・開設記念フォーラム」のご案内



すでにチラシ等でご案内してありますが、2月10日(土)に青森国際ホテル3F「萬葉の間」において年次報告会と教職大学院開設記念フォーラムが開催されます。午前の部(10:00~12:00)が院生による年次報告会(4会場に分かれて実施)、午後の部(13:00~17:00)が「これからの教職大学院に求められるもの」というテーマで開設記念フォーラムが行われます。

参加費は無料となっており、午前又は午後のみ参加も可能です。詳しくはチラシをご覧ください。なお、チラシ等をまだご覧になっていない方は、直接、下記にご連絡いただければ内容等について説明させていただきます。

連絡先 弘前大学教職大学院 副専攻長 瀧本 壽史
電話 0172-39-3411 Email htakimoto@hirosaki-u.ac.jp

年次報告会「教育実践開発コース院生の研究テーマ一覧」

	コース	氏名	研究テーマ	発表時間
1	教育実践開発	斗澤 晴加	生徒が主体的に学習する社会科 -効果的なグループワーク活動とは-	5 F 芙蓉の間 で実施
2	"	木村 文香	児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする小学校外国語活動・外国語の授業づくり -タスク活動を取り入れた授業を通して-	
3	"	神尾龍太郎	生徒が主体的に学ぶ中学校国語科 -教材研究に注目して-	
4	"	阿蘇 優香	生徒との信頼関係づくり -認めることとほめることの実践を通して-	
5	"	竹谷 涼	中学校社会科における学習意欲向上のための指導 -社会経済的要因から学習意欲の格差が生じている時代背景を踏まえて-	
6	"	田中 宏輝	実生活に生かせる健康教育実践 -保健体育を要にした教科連携的な実践を通して-	
7	"	新山 裕大	授業における深い学びの追求 -数学の授業実践を通して-	
8	"	佐藤 洋晟	高校数学における主体的な学びを促す授業づくり -ペア学習、机間支援を通して-	
9	"	八柳 匡	公民科におけるパフォーマンス課題の導入	
10	"	三上 悟	学習意欲の向上につながるグローバル/ローカル・ヒストリーの授業開発 -ナショナル・ヒストリー的な教科書記述との相対化を通して-	

年次報告会「ミドルリーダー養成コース院生の研究テーマ一覧」

	コース	氏名	研究テーマ	発表時間
11	ミドルリーダー養成	長谷川泰樹	児童の主体性を育むキャリア教育のアプローチ ー教科領域と特別活動を横断してー	10:30
12	〃	赤垣由希子	子どもと教師でつくる豊かなつながり	～
13	〃	大里 智子	総合的な学習の時間におけるキャリア教育	11:48
14	〃	外川 知絵	定時制高校におけるキャリア発達を促す「総合的な学習の時間」の在り方 ー場や集団の工夫と外部資源の活用を通してー	3 F 萬葉の間 で実施
15	〃	中田 泰人	同僚性を高める校内研修のあり方についての一考察	
16	〃	坂本 寛実	段差のない小中連携の在り方 ーアセスの分析等を通してー	10:30
17	〃	工藤 恵代	不登校の予防を目指した校内研修の在り方	～
18	〃	小泉 朋子	教員のニーズに基づく研修やサポートの在り方 ー若手教員や他校種・他障害種の特別支援学校から異動してきた教員を中心にー	11:48
				3 F 萬葉東の間 で実施

後期で学んだ学修内容

〈コース別選択科目〉

【1】教科領域指導研究〔ミドルリーダー養成コース、教育実践開発コース、共通選択科目〕

基礎科目で身に付けた教科領域指導充実のために必要な資料収集の仕方、教材研究等の在り方を発展させ、各自が抱えた課題や地域や学校が抱えている課題の解決のために、各自の専門教科についての知識、課題、授業への基本的な考え方について学習をする。なお、各専門教科への特化した内容だけを扱うのではなく、学校教育についての広い視点を持って各専門教科領域の学習指導にあたることの重要性についての理解も深める。

【2】養護実践課題解決研究〔ミドルリーダー養成コース、教育実践開発コース、共通選択科目〕

「あおもりの教育Ⅱ（健康）」での学習を踏まえ、学校における健康課題の解決について、養護教諭と教諭との協働を通じた取り組みの意義、組織体制、校内研修等の在り方、そして地域との協働の在り方等について実務的側面から広く考察する。また、養護の概念や機能の理解を基盤として、養護実践の内容・方法に関する基礎的理論について理解を深める。さらに、キャリアステージに応じた健康課題解決の実践について「チーム学校」の一員としての取り組みの在り方やミドルリーダーの役割についても考察する。（今年度受講希望者なし）

【3】特別支援教育の教育課程の実施と評価〔ミドルリーダー養成コース、教育実践開発コース、共通選択科目〕



基礎科目「教育における社会的包摂」での学びを発展させ、特別な配慮・支援を必要とする児童生徒の困難の改善を目指した具体的な指導内容・方法に関しての実践と省察を行い、それに基づく効果的な教育課程の編成について学ぶ。児童生徒の実態に関わる多角的な情報と専門領域の知見を踏まえた教育課程の編成が、児童生徒の困難の改善に有効であるとの認識を指導者間で共有する仕組みづくりのための資質を養成する。

【4】地域教育課題研究（教育課程編成・教材開発）〔ミドルリーダー養成コース選択科目〕

基礎科目「教育課程編成をめぐる動向と課題」、「教育課程の開発と実践」での学びと、独自テーマ科目「あおもりの教育Ⅰ（環境）」、「あおもりの教育Ⅱ（健康）」での学びを基に展開する。また、青森県の課題であるインクルーシブ教育を含めた教育における社会的な包摂についても扱っていくものとする。この科目は、青森県の課題について、その解決にむけて勤務校での教育課程に位置付けていける力や他の同僚教師とともに活用することを可能とするような教材開発へと展開させていく力を培う。

【5】協働的生徒指導のマネジメント [ミドルリーダー養成コース選択科目]

基礎科目「生徒指導の理論的視点と実践的視点」での学びを発展させ、校内・校外の各種資源との連携をコーディネートしながら生徒指導活動を展開していく方法について考える。今日的な教育問題の解決と児童生徒の自己指導力の伸展に向けた具体的方法について議論し、そのマネジメントについて理解を深める。学校全体の生徒指導活動の底上げにつながる実践的方法についても考察する。

【6】学校の地域協働と危機管理 [ミドルリーダー養成コース選択科目]

学校安全が対象とする生活安全、交通安全、防災(災害安全)の3領域のうち、特に地震などの自然災害における防災と危機管理に焦点を当てて学校の地域協働と危機管理について学ぶ。基礎科目の「学校安全と危機管理」で学んだ知識や考え方を活用し、発災時を想定しながら、学校や教員の果たす役割と地域協働の在り方について、これまでの教職経験での課題やヒヤリハットの分析、先進的事例の分析、危機管理体制の策定などを通して学ぶ。

【7】教育法規の理論と実践 [ミドルリーダー養成コース選択科目]

スクール・コンプライアンス(学校の法令遵守)の担い手として必要な以下の3つの力を高める。

- ①教育現場で生じうる問題について法的に考え、判断し、行動することができる(法的思考力 リーガル・マインド)
- ②法令、判例等の法的情報を探し出し、正しく読み解くことができる(法的調査力 リーガル・リサーチ)
- ③スクール・コンプライアンスについて、わかりやすく周知・徹底できる(法的表現力 リーガル・プレゼンテーション)

【8】学校教育と教育行政 [ミドルリーダー養成コース選択科目]

今日に至る教育改革の変遷を時代背景とともに踏まえ、教育行財政がどのように教育改革を推進してきたのかを理解する。その上で、学校経営の改革にとって必要な教育行政の視座とは何であるのか、様々な事例分析を通して考察し、今後の学校経営や教育改革を支える教育行政のあるべき姿を探る。

【9】教職員の職能成長 [ミドルリーダー養成コース選択科目]

今日における教員の職能成長を取り巻く状況とその在り方について、様々なレベル(個人・学校・教育行政)、あるいは多様な視点(教育社会学、教師教育、教育行政、ライフコース研究など)から「学び続ける教師」を支える体制づくりについて考察する。テキストや参考文献をもとにしながら、教員の職能成長についての理論的考察を踏まえ、教員の職能成長をめぐる今日的課題とそれを支える校内研修や行政研修などの体制づくりについて議論する。

【10】学校保健のマネジメント [ミドルリーダー養成コース選択科目]

学校保健計画を立案するとともに、その実施の推進を行う上で必要な制度・関係法規等について理解を深め、その上で、実践に向けた具体的方策を学ぶ。また、学校保健活動を円滑に行うため、教諭、養護教諭、栄養教諭のみならず地域の専門家等との協働など、学校全体を見据えた体制や条件整備、校内研修を含めた課題解決の在り方について考察をする。これらを通じて、学校保健のマネジメント機能を高めるための管理職と若手教員を繋ぐミドルリーダーの在り方について学校経営的側面及び実務的側面から考察する。(今年度受講者なし)

【11】学校安全と事故防止 [ミドルリーダー養成コース選択科目]

食物アレルギーの問題・慢性疾患・薬物乱用・性の逸脱行為と妊娠やデートDV・自傷行為・自殺企図・重大な学校事故等の児童生徒の生命の危険にかかわる現代的教育課題の状況とその背景やその課題特性について理解を深め考察する。また、それらの課題特性を踏まえた危機対応やその予防的対応の在り方について、学校の教育機能と医学的対応の視点等について理論的・実践的に考察する。その上で、学校全体の学校安全と事故防止機能を高めるためにミドルリーダーとしての学校や専門機関、地域を巻き込んだ解決への取り組み、校内研修の在り方について議論する。



【12】養護実践課題解決研究（発展）〔ミドルリーダー養成コース選択科目〕

「養護実践課題解決研究」での学習を踏まえ、心身の健康に関する現代的課題について、地域を巻き込んだ解決への取り組みの知見を自らの教職経験に基づいて深化させる。その際、当該課題について高い見識を有する地域の専門家との連携の視点から、ミドルリーダーとして協働的対応の役割を具体的な事例を通して実務的に学ぶ。また、学校の教育機能と児童生徒の社会性、発育発達の特性、医学的視点等、多様な視点から理論及び実践的対応について考察する。

〈教育実践研究科目〉

【1】教育実践研究Ⅱ〔ミドルリーダー養成コース、教育実践開発コース、共通必修科目〕



本授業はゼミ形式で行う。授業では各院生のレポート発表とそれに基づいた院生同士及び教員との議論を通して、各院生の課題解決に向けた研究仮説を洗練させていく。なお、レポートの内容は以下のようなものとする。

- ・「実習Ⅱ A（仮説形成）」、「実習Ⅱ B（仮説形成）」での事実とその分析の記録や実践記録とその考察。
- ・自らの研究課題に関連した先行研究とその研究成果についての考察。

なお、授業は指導教員ごとにグループに分かれ、各グループごとに行うが、原則、2つ程度のグループが合同で行うようにし、教育実践開発コースでは仮説を基にした実践の在り方を理解できるようにする。また、ミドルリーダー養成コースでは研究課題解決のための仮説とその検証の視点を形成できるようにする。

〈実習科目〉

【1】実習Ⅱ A（仮説形成）〔ミドルリーダー養成コース〕

自らの課題に沿って選択した研修会に参加する。連携協力校の校内研修会に参加する場合は、研修会の企画会議や学習指導案検討会に資料等を持って参加し研修会開催校の教員と意見交換を行う。また、研修会には本専攻の教員と参加し、研修会の課題と成果をまとめる。青森県総合学校教育センターの研修会に参加する場合は、本専攻の教員とともに研修会の企画から関わり、研修会当日は研修会の手伝いを行いながら研修会主催者の視点を持って研修会に参加する。なお、本実習も「教育実践研究Ⅱ」と連動させ、指導教員の指導のもと課題の設定及び課題解決のための仮説の形成を行う。



【2】実習Ⅱ B（仮説形成）〔教育実践開発コース〕

実習Ⅱ B-1（課題把握）及び実習Ⅱ B-2（課題把握）の成果と課題をもとに、連携協力校において、週1日教員と同じように教育活動に取り組む学校フィールド実習を行う。こうした教育全般に関わる学校フィールド実習を「教育実践研究Ⅱ」と連動させ、各自の教育実践的な課題及び研究的な課題 についてその解決のための仮説を設定し、仮説を基に実践→省察を行い、仮説の洗練を行っていく。

後期の学修を振り返って (ミドルリーダー養成コース)

赤垣 由希子 (野辺地町立野辺地小学校勤務)



これまでも今も、たくさんの出会いの中で多くのことを学んでいます。すてきな機会をいただいたことに改めて感謝した一年間でした。大学で学ぶ1年生の学生の方に教職の魅力についての話をしたとき、大切な教え子が目の前で話を聴いてくれました。互いに涙をこらえながら同じ時間を共有できたことはとても幸せなことでした。私の中でリセットしなければ進むことができずにいることを大学の先生方・仲間・教え子、そして、これまで出会った全ての先生方が背中を押してくれているように感じます。まずは伝える力にします。

大里 智子 (県立青森西高等学校勤務)



この一年の大学院での学びを通して、これまで日々の業務にいかにかに狭い視野で取り組んでいたか気付かされました。授業づくりやカリキュラム、学校組織等において、生徒のあるべき姿(目標)を定めそれに向かうことが最も大切であり、その目標は教職員、生徒・保護者、学校を取り巻く社会で共有することが必要であると強く感じました。また、同院生の他校種教員から得られた情報や新たな視点も貴重な財産であると感じます。

工藤 恵代 (つがる市立木造中学校勤務)



前期の講義では、演習やグループ協議を通じて理論と実践がつながることにうれしさを感じていましたが、後期の講義や演習を通して、これまでの実践での取組が理論によって根拠づけられるように

なりました。理論の重要性を実感することができた一年間だったのではないかと思います。

来年度は勤務校に戻りますが、研修したことを先生方にわかりやすく伝えるとともに、教職大学院での学びをどんどん広めていきたいと考えています。

最後に、この弘前大学教職大学院での学びを勧めていただいた方々、そして現任校の先生方に心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

小泉 朋子 (県立八戸第二養護学校勤務)



教職大学院での一年間の学びを通し、「学校を組織として捉える」という視点が身に付いたことが、私にとって一番大きな学びだったと思います。また、教育法規や教育行政、教育課程、学校の危機管理、地域協働などなど、学校経営についての幅広い学びを得ることが出来、大変貴重な一年間を過ごすことが出来たことに感謝しています。

4月からはこの一年間の学びを実践につなげ、自分を高められるよう頑張っていきたいと思います。

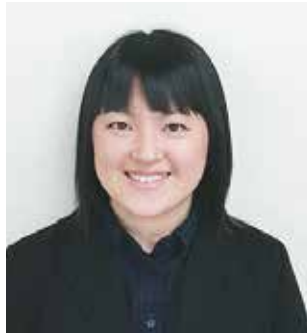
坂本 寛実 (田舎館村立田舎館中学校勤務)



昨年度までの私は自分が担当している学年・学級、校務分掌を中心に見ていて、あまり学校全体という広い視点で見ていなかったと思います。

しかし、この教職大学院で、「教育課程」や「カリキュラム・マネジメント」、「健康教育」、「学校安全・危機管理」などの幅広い授業や中学校以外の校種、教育関連施設等での実習を通して、学校全体を俯瞰して見る目が育ったように感じます。また、たくさんの専門書を読んだり、たくさんのレポートも書いたりしましたが、それらは今大きな財産となっています。その財産を勤務校、生徒、地域に還元できるように来年度は頑張っていきたいと思います。

外川 知絵（県立北斗高等学校勤務）



勉強の怒涛に飲み込まれ、気がついたら後期末まで流れついていた…という感じです。講義での学びに加え、幼稚園から中学校までの他校種で実習もでき、視野を大きく広げることができました。すると、高校でやるべきこ

とがたくさん見えてきて、「本当に頑張らなきゃいけないぞ自分!!」と気合いが入ります。

4月からは、この1年で学んだことや気づいたことを実践までつなげられるよう、勤務校で様々なことに挑戦したいと思います。

中田 泰人（青森市立造道中学校勤務）



「ミドルリーダー」として学校のために何ができるか？そんなことを考えながらスタートした4月でしたが、様々な講義・演習を通して今までの自分の学びの不十分さ、個人としての課題が多く見つかった1年でした。様々な

実習でも、今まで気づけていなかった先生方の工夫、配慮があり、自分を磨くこと、スキルアップをしていかなければと実感しました。また、同じく現職の立場で学んでいる先生方やストレートマスターの方々からも新たな学び、刺激を受け、充実した時間を過ごすことができました。今後は自分の学びをさらに確かなものにし、それを学校、子どもにどう貢献していけるかを考えていきたいと思っています。

長谷川 泰樹（三戸町立斗川小学校勤務）



気がつけば一年が終わろうとしています。たくさんの授業や実習でこれまで意識してこなかったことに目を向けるようになったことは大きな学びになったと実感しています。また、教職大学院研究大会での発表は、貴重な

経験となると共に、これまでの学びを深めることにもなりました。教職大学院での学びの先に子どもた

ちの成長があると信じて、自分を一層高めていこうと思っています。

2月8日に「健康教育シンポジウム」が開催されます

2月8日（木）に青森県中南地区連携推進協議会（青森県教育庁中南教育事務所、弘前大学教育学部・大学院医学研究科・大学院教育学研究科、弘前市・黒石市・平川市・藤崎町・大鰐町・田舎館村各教育委員会）が主催となり、「健康教育シンポジウム」が開催されます。

今回は「小学校、中学校における健康教育をどのように充実させるか 一生涯にわたり心身共に健康な生活を営むための知識や実践力を備えた児童・生徒の育成を目指して」のテーマのもと、下記の日程で行われます。

会 場

スポカルイン黒石
青森県黒石市ぐみの木3丁目6 5

日 程

- | | |
|-------------------|-------------|
| (1) 受 付 | 13:00~13:30 |
| (2) 開会行事 | 13:30~13:35 |
| 中南地区連携推進協議会会長挨拶 | |
| 戸 塚 学 (弘前大学教育学部長) | |
| (3) 健康教育授業実践発表 | 13:35~14:15 |
| 黒石市立黒石小学校 | |
| 教 諭 秋 谷 啓 児 | |
| 黒石市立中郷中学校 | |
| 養護教諭 中 村 菜穂子 | |
| (4) 健康教育への提言 | 14:15~14:55 |
| 弘前大学大学院医学研究科 | |
| 特任教授 中 路 重 之 | |
| 弘前大学教育学部 | |
| 学 部 長 戸 塚 学 | |
| (5) シンポジウム | 14:55~16:25 |
| (6) 閉会行事 | 16:25~16:30 |

この研修会に参加し、健康教育についてじっくり考えてみませんか。皆様の参加を心よりお待ちしております。

〈編集・発行〉

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻
(教職大学院) News Letter 3号 2018. 2. 2発行
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
Tel 0172-36-2111 (代表)
メール k-daigaku01@hirosaki-u.ac.jp
H P http://www.edu.kirosaki-u.ac.jp/gs/
弘前大学教職大学院 入試フォローアップ部会